

公益財団法人東京しごと財団委託事業 東京都補助事業

東京ジョブコーチ



CONTENTS

- 1 Customers Voice
株式会社明大サポート
戸田建設株式会社
社会生活サポートセンターこみっと
世田谷区障害者就労支援センターすきっぷ就労相談室
- 2 東京ジョブコーチ支援室とは
- 3 ご利用にあたってのQ&A

2017.2
第10号

東京ジョブコーチ職場定着支援事業広報紙（年2回発行）

経営企画部長 前田 謙一 様
 経営企画部 荒金 美樹 様 カフェパンセ副店長 高岡 彰 様



経営企画部 荒金 美樹 様
 2010年入社。2014年10月に経営企画部・人事に配属。同時期、障がい者雇用の担当となる。

「何か困った時には経験豊富なJCに相談できる」
 現場スタッフが安心感をもつことができました

障がい者雇用のきつかけを
 教えて下さい。

前田様(以下M)：二〇一三年に「経営企画部」という人事部門を設立したことがきっかけで、本格的に障がい者雇用を進めようという意識が生まれました。軽度の身体障がいのある方が雇用を進めやすいという話を聞いた事がありましたが、大学という教育の中核機関だからこそ、多様な人材を雇用するべきではないか、という個人的な想いは以前から抱いていました。

荒金様(以下A)：所沢の「国立障害者リハビリテーションセンター」へ見学に行った際、偶然特別支援学校の先生とご挨拶する機会がありました。それを機に、改めて顔合わせの日を設けていただき、学校とのご縁ができました。

現在、障がいのある方を四名雇用されているんですね。

M：四名のうち二名は特別支援学校卒の知的障がいのある方、他は新卒ではなく精神障がいのある方一名、身体障がいのある方一名です。今後も毎年採用したいと考えています。当初は人事部門のある駿河台キャンパスでの雇用を始めましたが、和泉や中野等のキャンパスもある中で、その近隣の特別支援学校と連携を取りたいと考えています。

株式会社明大サポート

【沿革】1996年学校法人明治大学と学校法人中野学園が出資し、設立された事業会社。
 【事業内容】業種は60業種と多岐にわたっており、主な事業としては、学内販売店舗やカフェをはじめとする福利厚生に関する事業と、図書館をはじめとする大学からの受託業務や、保険、旅行の代理店業務など。
 【企業理念】「∞へ変える、今、この瞬間」



カフェパンセ副店長 高岡 彰 様
 経営企画部長 前田 謙一 様

障がいのある方の仕事について
 お聞かせください。

高岡様(以下T)：当店で働くAさんには、食器洗いや店舗内清掃等を中心に行っていたりしています。最初は難しい面もありましたが、採用から一年経った現在は順調で、私が声

をかけなくても一人で作業を進められるようになりました。雇用当初から東京ジョブコーチ(以下JC)にも助けていただきました。

支援中のエピソードはありませんが、T：例えばフロアのゴミを箒で掃いてほしい時、「掃除して下さい」と伝えるだけでは、Aさんにとっては理解が難しいことをJCから教わりました。また、場所や順番を決める等、具体的な指示の出し方を教えていただき、参考になりました。

あとは、怒ってはいけないうこと。お店の繁忙時、「きちんとやってください」とAさんに対して強い強めの口調で伝えてしまうことがあったのですが、「怒ってもAさんは怒られたという印象しか残らないですよ」とJCから教えていただいたことで気をつけるようになりました。

当事業をご利用いただいた感想をお聞かせください。

A：事業利用前、JCは障がいのある方本人への支援を主に担う役割であると思っていました。しかし今は、本人だけではなく不安が強い現場スタッフのサポートもしてくれています。「何か困った時には経験豊富なJCに相談できる」という安心感により、現場もスムーズに対応できました。

「大丈夫ですよ」の一言で気持ちが軽くなりました
 JCはメンタルサポーターのような存在です

M：利用前に危惧した点は、JC支援期間中は本人がしっかりと働き、JCのサポートが終了した途端に本人のパフォーマンスが落ちてしまうこと、また企業側も「今日はJCが来る日だからお任せしよう」という甘えた考えに陥ってしまうことでした。ただ、実際の支援内容は良い意味で全く違っていました。JCは、ご本人はもちろん企業側にも精

神的な支援をしてくれるメンタルサポーター(笑)のような存在です。「大丈夫ですよ」「その方法でやってみましょう」とJCから一言言ってもらえるだけで、気持ちが軽くなりました。

今後の展望について
 お聞かせいただけますか。

A：二〇一七年春、三人目となる特別支援学校卒業生の方が入社予定です。同じ障がい名であっても得意な事、不得意な事は人それぞれです。型通りにはいきません。障がい特性に関する基礎知識はある程度持っていたほうが良いでしょうが、ご本人に合わせた方法を考える必要があると強く感じています。

M：特別支援学校の新卒生が一八歳で入社し二十歳を迎える頃には大きな成長が感じられます。先ほど掃除の話が出ましたが、健常者と言われる従業員に対して「掃除して下さい」と指示して全員が同じ動きをするかというところではない。「健常者」「障がい者」という括りではなく、個性や今までの経験によって行動は異なっている。ただ、障がいのある方は、そこに加えて周りから少しフォローする必要があります。これらも、一人ひとりの成長を大切に考えていきたいです。



カフェパンセ前にて

人事部ダイバーシティ推進室
室長 越智 貴枝 様



越智 貴枝 様

2014年より人事部ダイバーシティ推進室長、現職。
ビジネスサポートセンターを立上げ、他3名の社員と共に障がいのある方の雇用を進めている。

戸田建設株式会社

【創業】1881年（明治14年）
【設立】1936年（昭和11年）
【本社】東京都中央区
【事業】建築事業、土木事業、不動産事業
【拠点】国内11ヶ所、ブラジル、東南アジア等、海外拠点も多数展開
【施工実績】建築・ヨコハマインターコンチネンタルホテル（横浜）、スタジオアルタ（新宿）、有楽町イトシア
土木・飯田ダム、額田トンネル、東北各地における復興事業等多数

建築業界で初めて「イクボスアワードグランプリ」を受賞しました

御社の事業内容について

教えて下さい。

越智様（以下O）：弊社はゼネコン（ゼネラルコンストラクターの略）と呼ばれている総合建設会社です。発注者様からお仕事をいただき、複数の協力会社と協働しながら工事のとりまとめをすることがメインの仕事です。

弊社の強み・特徴としては、「建築・土木共に豊富な施工実績」「環境保全に対する取り組み」「充実した教育体系」の三点が挙げられます。弊社は「病院・学校の戸田」と呼ばれ、東京医科歯科大学病院総合研究棟や早稲田大学大隈講堂等の施工実績があります。

また「環境保全に対する取り組み」では、環境評価を行う国際的な非営利団体CDP（本部：ロンドン）から、最高のランクである「The Climate A List 2016」として認定されました。

そして教育体系においては様々な研修の機会や、業務経験を通して職務知識やノウハウを習得し、長期的視野で育成することを基本方針としています。

イクボスアワードグランプリを受賞されたとか。取り組みについて教えてください。

O：二〇一六年に建設業界で初めて厚生労働省の「イクボスアワードグランプリ」を受賞しました。また同年、一般社団法人日本建設業連合会の「けんせつ小町活躍推進表彰」において「イクボスが現場を変える」という弊社の現場の取り組みが最優秀賞を受賞しました。受賞をきっかけにイクボスのロールモデルを社内でも水平展開し、女性活躍推進には欠かせない理想的な上司を増やしていきたいと考えています。

障がい者雇用はどのように進められましたか。

O：二〇一三年度に特別支援学校卒業生で知的障がいのある方が三名入社しました。その後、ビジネスサポートセンター（以下BSC）を立ち上げ、現在、8名の障がいのある方がBSCに所属しています。巡回清掃、事務、メールデリバリーの三つのチームに分かれ、八名全員が全ての業務を順番に担当する「ジョブ

チームとしての基盤づくりのためにも
東京ジョブコーチに活躍してもらっています

ローテーション」という体制をとっています。「職域拡大」をテーマとし、様々な業務で活躍してもらっています。

どのように職域拡大や社内理解を進めましたか。

O：職域拡大については、先進企業の取り組みを多数見学しました。いただいたヒントはすべて、今の弊社の取り組みの基盤となっています。中でもある企業では、健常社員の方が常駐したり付き添ったりせず、障がいのある社員の方が自立して仕事に取り組んでおりその姿に感銘を受けました。真の自立とは何かを深く考えさせられました。

社内理解の点では、立上げ当初は仕事がなく困ることもありましたが、他社事例を参考にしながら各部署に業務の抽出を依頼しました。実績を重ねることで着実に依頼数が増え、理解も深まったように感じられます。現在は、障がいのある社員の仕事ぶりを見た現場の社員から「非常に助かる」という声や日々頑張りが評価されていることを実感しています。

雇用当初より当事業をご利用いただき、ありがとうございます。

O：本人たちの適性を見極める際、第三者の立場である東京ジョブコーチ（以下JC）よりいただけの助言によって説得力が増し、社内の理解を得やすくなったと感じています。ある清掃現場では、時間配分に関する配慮点やホワイトボード活用による「見える化」に関する助言をいただき、仕事の効率化につながりました。

C社員同士のヨコのつながりや協調性を高めるためにもJCの方にご活躍いただいています。BSCでは「チームワークや感謝の気持ち大切です」という目標を掲げていますが、人との距離の取り方などコミュニケーションに関する客観的視点からの助言が役立ちました。このようにJCの方が蒔いてくれた種が現場で少しづつ育っていく様子を日々感じていきます。会社に貢献できるチームとしての基盤づくりのために、JCの方に理想的な関わり方をしていただき、とても感謝しています。

人材育成や今後の展望について

お聞かせ下さい。

O：若い社員が多いため、好き嫌いで仕事は選べないことや収入を得ることの大変さなど、社会人としての心構えは日々タイミンングを逃さず伝えるようにしています。その背景には将来、どこへ行っても通用する人間になって欲しいという想いを込めています。

今後は本社で得たノウハウをもとに、全支店に雇用を拡げていきたいと考えております。そして障がい特性ではなくくりきれない、その方の性格や個性を見つめ、良い点を伸ばしていく視点を全社で共有していきたいと考えています。



中央区京橋の
本社にて

法人理事 松清 敏子 様 所長 斉藤 容子様 就労支援員 池田 真砂子 様



池田 真砂子 様
看護師、訪問型職場適応援助者、公認 WRAP ファシリテーター。病院勤務を経て、2012 年入職。

NPO 法人ゆるら / こみっと

「心のつらさを感じ続けてきた人が安心して何気ない日々を送れる社会を作る」
【沿革】2012 年 4 月から障害福祉サービス（生活訓練事業）である「社会生活サポートセンターこみっと」を開設。多摩地区を中心に、地域づくり・メンタルヘルスの促進を行っている。
【こみっと】所在地：立川市
「何かに向け強い意志をもって積極的に取組んでいく」という意味のある英単語「COMMIT」から名付けている。

ご本人のニーズにあわせて支援者も動く、そこからちゃんとご本人が選択できるようになります

事業内容について教えてください。
斉藤様（以下 S）…法人は「NPO 法人ゆるら」といって、その一事業所が「こみっと」です。「こみっと」は就労移行と生活訓練の多機能型事業所です。他には地域活動支援センターの「マッキー」と計画相談の「ぼらりす」があります。その他事業としては、「リカバリーカレッジたちかわ」というメンタルヘルスに関する学びの場があります。全て立川市内に事業所があります。

各事業所の名称が印象的ですね。どなたが名づけられたのですか。
S…利用者の方からの提案です。ゆるらは法人の定款に「ゆるやかな暖かい場所」とあるのですが、その「ゆるやか」の古語である「ゆるら」から名付けました。

こみっとの特徴を教えてください。
池田様（以下 I）…IPS（個別就労支援プログラム Individual Placement and Support）をもとに支援を行っています。施設内でのトレーニングは最小限にし、できる限り早い時点で求職活動を進めます。活動の際は、こみっとの職員が同行するように努めています。利用者の増加と共に、定着支援の際

は東京ジョブコーチ（以下 JC）を活用させていただく機会が増えていきます。

松清様（以下 M）…「働きたい」という希望をお持ちの方でしたら、基本的にはどんな条件の方でもお断りすることはほとんどありません。

支援実績を教えてください。
S…二〇一五年五月から二〇一六年五月までの一年間で、就労移行ご利用の方が延べ四六名で、就労達成された方が半分の二三名です。

半分の方が就職されたのですか。
S…でも、全ての方が継続されています。



左：所長 斉藤 様 右：法人理事 松清 様

えっ！すごい行動力ですね。
I…片っ端からかけまくりました。例えば、ご本人が希望する高級ブランド、ラグジュアリーブランドの企業に（笑）

M…各社のホームページを見て、池田が直接企業へ障がいのある方の採用に関する問い合わせをするのもありました。

W）経由ですか？
I…HW 経由もありますし、ご本人が HW で見つけてくる場合もあります。一般の求人から問い合わせる場合もあるため、方法は限定していません。

JC から学ぶことも多く、自身のスキルアップにつながっています

るわけではなく、お辞めになって次のテーマに向かわれる方もいらつしやいます。二〇一六年五月の時点で就労継続中の方は十五名です。

当事業利用の感想をお願いします。
I…スピーディに対応してくれる点はすごくありがたいです。また、現場の中に入って調整するという点で職場環境や事情を熟知して、対応に慣れていらつしやる方が多いという感じで安心感があります。

JC はご本人や企業の方の不安感を汲み取り柔軟に対応してくれるので助かる、というご利用いただいたお客様からの声をいただくことがあります。

I…はい、そのような JC の方が多い印象です。JC との連携の中で私たちが学ぶことも多々あるので、一緒に取り組むことで私たちもスキルアップにつながっていると感じます。今後も JC 事業が永続的に運営されることを期待します。

当事業は精神障がいや発達障がいのある方への支援依頼も増えています。求人はハローワーク（以下 HW）経由ですか？
I…HW 経由もありますし、ご本人が HW で見つけてくる場合もあります。一般の求人から問い合わせる場合もあるため、方法は限定していません。



こみっと前にて
（左から）千葉さん、斉藤さん、池田さん、松清さん

利用者一人ひとりのニーズを大切にされているのですね。
I…ご本人のニーズに合わせて動いていくと、ご本人がちゃんとそこから選んでいきます。ご本人が納得できないままにいろいろなものが入り込んでしまうと、そこから前へ進めなくなってしまう。あの時あんな風に支援機関の人が言ったから、になってしまふのは嫌ですね。たとえ「総理大臣になりたい」であっても「宇宙飛行士になりたい」であっても、「どうしてそれになりたいのか」「じゃあどうやったらなれるのか」を一緒に考えていきたいです。そこから何か扉が開くこともあると思っています。

ありのままのご希望を受け止めるところから、ご本人との関係性を築いているのですね。
I…そうかもしれないですね。私たちの想像をはるかに超えた可能性がご本人の中に眠っていたりするので、「無理」と決めつけるのは控えるようにしています。大きなチャンスがめぐってくることもあるので、可能性に勝手に戸を立てないように気を付けています。

すきっぷ就労相談室 室長 福田 隆志 様
分室クローバー 田中 あや 様



田中 あや 様
日野市社会福祉協議会勤務を経て、2013年法人入職。就労支援コーディネーターとして障がいのある方の職場定着や生活に関する支援に携わる。

定着支援と生活支援の強化のため

すきっぷ就労相談室は「三所一体」で運営しています

すきっぷの設立経緯について教えてください。

福田様(以下F)・・・一九九八年、就労支援に特化した通所授産施設「世田谷区立知的障害者就労支援センターすきっぷ」として開所しました。原則二年間の通過型であるこちらの事業は、現行の就労移行支援事業のモデルとなりました。そして翌年の一九九九年、通所利用者以外の方を対象とした就労相談窓口が設置されました。当時は、知的障がいのある方の雇用の義務化、民間企業の障害者法定雇用率が一・八%に上昇等、知的障がいのある方の雇用が話題にあがる一方、その就労支援についてはまだまだ認知度が低い時代でした。

就労相談窓口は、後に東京都区市町村障害者就労支援事業に移行し、「すきっぷ就労相談室」として多くの就職者を出しています。

「すきっぷ就労相談室」の最近の登録者の傾向はありますか。

F・・・現在、就労相談室の登録者は、五五〇名を超えました。主に知的障がいのある方の登録が多いですが、障がいのある皆さまの就労や就労

社会福祉法人東京都知的障害者育成会 / 世田谷区の障害者就労支援事業

【社会福祉法人 東京都知的障害者育成会】
1961年 東京都内各地域に発足した親の会の連合体として創設。72年 社会福祉法人の認可を受け民営授産事業や東京都通勤寮の運営受託をはじめとした事業を開始。受託施設等事業所63ヶ所、グループホーム・ケアホーム123ヶ所等を運営。

【世田谷区の障害者就労支援事業】
区内には「すきっぷ就労相談室」(主に知的障がい)、「しごとなつと」(主に精神障がい)、「ゆに(UNI)」(主に発達障がい)の3つの就労支援センターがあり、相互に連携しながら専門性を活かした支援を行っている。

中の生活に関する相談や支援を行っています。

最近では、特別支援学校からの就職者も増え、卒業と同時に登録される方も増えてきています。

就労相談室は二〇一三年度より新体制になったとかがありました。

F・・・二〇一三年度より定着支援と生活支援をより一層強化するため、就労障害者生活支援センター「クローバー」と「分室そしがや」と「就労相談室」の三所一体での運営を開始しました。体制変更から三年経ち、ようやくご本人やご家族の方にも定着してきたように感じています。仕事後や余暇時間の居場所として



就労相談室長 福田 隆志 様
1999年法人入職、2015年より現職。

悩んだ時、東京ジョブコーチとも連携をとりながら支援を進めていけるので、とても心強いです

各所を活用して下さる方も増えてきています。生活も仕事も包括的にサポートしてもらえると安心感の下、三つの事業所の役割が浸透してきたという実感があります。

定着支援を行う際、どんな点に難しさを感じますか。

田中様(以下T)・・・在職期間が長い方ほど、途中から関わる難しさを感じる場合があります。例えば、企業の方からご本人のある言動について課題として挙げられた時に、支援者としては、その言動が障がい特性によるものなのか、在職した後発的に生じているのかを見極めることが難しく、ご本人や企業へ助言する際にとっても悩むことがあります。

職員間の連携をもとに解決してはいますが、最近では東京ジョブコーチ(以下JC)とも連携をとり支援を進められるので心強いです。同じ認識の下に企業、支援機関、JCがチームを組んで支援を進められることが、働くご本人にとっての大きな安心感につながっていると思います。

今後もし引き続き、相談室内においてケース検討会議を定期的開催し、事例について皆で意見交換しながら認識を深める機会を作りたいです。

在職中の方への定着支援の際、

当事業をご利用いただきました。

T・・・私自身初めてのJC依頼でしたので、どう進めたら良いか不安がありました。顔合わせの時にJCの方のご本人の趣味や余暇等の話も引き出し、和やかな雰囲気の中で話を進めて下さったので、ご本人も

安心した様子でした。

顔合わせ中、田中さんからも「定期的にご本人と面談します」と提案していただいたことで、JCと役割分担の下に支援を進められました。T・・・JCに職場の雰囲気やコミュニケーションなどを教えていただいたことで、ご本人との面談がスムーズに行われ、とても助かっています。

最後に、区内の就労支援ネットワークについてお聞かせ下さい。

F・・・二〇〇七年度より始まった「世田谷区障害者就労支援ネットワーク」では、区内の障害者施設が参加し、月に1回、定例会を実施しています。定例会では、就労支援に関する情報交換に加え、職員向けの研修や利用者向け研修の企画など行っています。すきっぷ就労相談室は同ネットワークの中核となり、区やハローワークなど関係機関と共に、各施設のサポートも行っています。



取材当日はちょうど「三所会議」開催の日でした

(左から) 福田さん、渋谷さん、中谷さん、すきっぷ施設長西村さん、中村さん、萩原さん、田中さん

東京ジョブコーチ支援室とは

東京ジョブコーチ支援室は、ご相談やご依頼の窓口であり、東京ジョブコーチが円滑に支援を行えるようにサポートしています。

対応するコーディネーターの主な業務内容は、以下のとおりです。

- ・電話等による支援のご相談やご依頼への対応
- ・障がいのある方、企業、支援機関への当事業のご説明
- ・支援のご依頼内容とジョブコーチのマッチング調整
- ・企業、支援機関等を訪問し、事業説明に加え、インテーク面談の同席
- ・支援開始後は、支援場面での状況確認及びジョブコーチへのスーパーバイズ

コーディネーターは、ジョブコーチ支援経験や障がいのある方の職場定着支援経験を有する専門的なスタッフです。お気軽にご連絡ください。

ご利用にあたってのQ&A

Q：20日以内を目安とした支援とは、どのようなスケジュールになりますか？

A：一例ですが、新規就職の場合は、支援開始当初は、集中的に支援する期間として、週当たり2～4日の手厚い支援を行います。

その後は、上記の経過を踏まえ、関係者間で現状の確認や支援の見直しを行い、更なる定着が図れるように支援を続けます。課題達成度に応じて、徐々に支援に入る頻度を減らし、支援終了前には関係者間でその後のフォローアップ体制を確認します。

表紙の絵：「虹色の樹とジャングルの仲間たち」須田 雄真（すだ ゆうま）

2014～ エイブルアートジャパン主催 アトリエポレポレに通い始める
2015～ 油絵を始める
2016 特別支援学校アートプロジェクト入選(伊藤忠アートスクエア)
世田谷区民絵画展 銀賞(世田谷区美術館)

動物、鳥、魚、恐竜など幼い頃から生き物の絵を描くことが好き。
動物園や水族館が大好きで、そこで見た生き物や撮った写真、また図鑑、写真集などからイメージを膨らませ自分の世界を描いていく。
のびのびした生き物の表情と鮮やかな色使いは見る人を優しい気持ちにさせてくれる。

また3年ほど前からピアノを始める。
先生の弾く指の動きを録画し、楽譜を使わず目と耳のみで覚えていく。
クラシックやジブリなどレパートリーも多数。

♪ Instagram sudayuma にて作品公開中♪
♪ 2017年近日中、Café「ワーキングホリデー・コネクション 原宿・表参道 YMスクエア店」 (<http://wh-c.jp/>) にて本作品を含め展示予定♪



須田雄真さん
1998年生まれ
世田谷区在住

Contact us

事業のご利用（支援依頼等）に関すること

東京ジョブコーチ支援室

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-3-39 STSビル3階

TEL(03)5386-7057 FAX(03)5386-2227

Eメール tokyo-jc@ikuseikai-ky.or.jp

ホームページ <http://www.ikuseikai-ky.or.jp/~iku-tokyo-jc>

事業全般、東京ジョブコーチ募集・研修に関すること

公益財団法人 東京しごと財団

障害者就業支援課 コーディネート事業係

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-10-3 東京しごとセンター8階

TEL(03)5211-2682 FAX(03)5211-5463

ホームページ <http://www.shigotozaidan.or.jp/shkn/>